

SDS 安全データシート

1. 化学品等及び会社情報

化学品の名称	ラボ用マーカー 各色
製品コード	4-818-** シリーズ
会社名	アズワン株式会社
住所	大阪市西区江戸堀2丁目1-27
部署	品質保証部エビデンス管理グループ
電話番号	06-6447-8614
Eメール	gvomu@so.as-1.co.jp
推奨用途及び使用上の制限	汎用マーカー。臨床・医療用、生体に使用しない

2. 危険有害性の要約（含有するキシレンとして）

GHS分類	物理化学的危険性	引火性液体	区分3
		自然発火性	区分外
		金属腐食性物	区分外
	健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分5
		（経皮）	分類できない
		（吸入・蒸気）	区分外
		皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分2
		眼に対する重篤な損傷性又は刺激性	区分2A
		発がん性	区分外
		生殖毒性	区分1B
		特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分1（呼吸器、肝臓、中枢神経系、腎臓）
		特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分1（呼吸器、神経系）
		吸引性呼吸器有害性	区分2
	環境に対する有害性	水生環境有害性 短期	区分2
		水生環境有害性 長期	区分2

GHSラベル要素
絵表示注意喚起語
危険有害性情報

危険
引火性液体及び蒸気。飲み込むと有害のおそれ（経口）
皮膚刺激。強い眼刺激。生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
呼吸器、肝臓、中枢神経系、腎臓の障害、眠気及びめまい
のおそれ。長期又は反復ばく露による呼吸器、神経系の障
害 飲み込み、気道に侵入すると有害のおそれ。水生生物
に毒性

注意書き
安全対策

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。容器を密閉しておくこと。粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。取扱後はよく手を洗うこと。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

応急措置

環境への放出を避けること。保護具を着用すること。
漏えい（洩）ガス火災の場合：漏えいが安全に停止されない限り消火しないこと。漏えいした場合、着火源を除去すること。吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は医師に連絡すること。飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹸）で洗うこと。
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。医師の診断／手当てを受けること。皮膚刺激が生じた場合：医師の診断、手当てを受けること。

保管

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。

廃棄

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

他の危険有害性

情報なし

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

混合物

成分

含有成分	化学物質名称	CAS	wt%	化審法
キシレン		1330-20-7	<70	(3) -3

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

皮膚を速やかに洗浄すること。

眼に入った場合

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
数分間多量の水で洗い流し（できればコンタクトレンズをはずして）、医療機関に連絡する。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。気分が悪いときは医師に連絡すること。

予想される急性症状及び遅発性症状：

吸入すると、めまい、し眠、頭痛、吐き気。
皮膚に接触すると、皮膚の乾燥、発赤。
眼に接触すると、発赤、痛み。
飲み込むと、灼熱感、腹痛、めまい、し眠、頭痛、吐き気。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

使ってはならない消火剤

特有の危険有害性

粉末消火剤、二酸化炭素、泡消火剤

棒状放水

加熱により容器が爆発するおそれがある。火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。引火性液体及び蒸気。

特有の消火方法

供給源を遮断する。供給源の遮断が不可能で、かつ周辺に危険が及ばなければ、燃え尽きるにまかせる。水を噴霧して圧力容器を冷却する。

消火を行う者の保護

必要に応じ保護具、自給式呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

環境に対する注意事項

封じ込め及び浄化の方法及び機材

関係者以外の立ち入りを禁止する。作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

危険区域から立ち退く。専門家に相談する。個人用保護具を着用する。自給式呼吸器。換気する。すべての発火源を取り除く。液体に向けて水を噴射してはならない。圧力容器が漏出しているときは、気体が液状で漏れるのを防ぐため、洩れ口を上にする。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策

安全取扱い注意事項

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。接触、吸入又は飲み込まないこと。眼に入れないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。換気の良い区域で使用する。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

環境への放出を避けること。

「10. 安全性及び反応性」を参照。

保管

接触回避

安全な保管条件

日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。冷所で保管する。

安全な容器包装材料

密閉した現容器にて保存。移し替えないこと。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

設備対策

保護具

混合物のため未設定

局所排気装置等の適切な排気装置

液状であれば、帯電を防ぐ（例えばアースを使用）。

必要に応じて個人用保護具を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	液体を含む固体
色	黒、青、緑、赤の各色
臭い	特徴的な臭気
融点／凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	>110℃
可燃性	可燃性
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	27.0℃
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	水に不溶 エタノール、エチルエーテル、クロロホルムに易溶（HSDB (Access on November 2019)）
比重	0.9 @25℃
粒子特性	該当しない

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の状態において安定
危険有害反応可能性	炎との接触すると激しく燃焼するおそれがある。
避けるべき条件	混触危険物質との接触
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素を生じる。

11. 有害性情報

急性毒性 経口	ラット LD50 300mg/kg
経皮	ウサギ LD50 4350mg/kg
吸入：蒸気	ラット LD50 29.08mg/L/4時間
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分2A
呼吸器感作性	データなし
皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	分類できない。
発がん性	区分外
生殖毒性	区分1B
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分1 中枢神経系、呼吸器、肝臓、腎臓。区分3（麻酔作 用）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分1 神経系、呼吸器

1 2. 環境影響情報

生態毒性	水生環境有害性（急性）	区分2
	水生環境有害性（長期間）	区分2
オゾン層への有害性		当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。
汚染容器及び包装	容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

該当の有無は製品によっても異なる場合がある。法規に則った試験の情報と、12項の環境影響情報とに基づいて、修正が必要な場合がある。

国際規制	国連番号	1307
	国連品名	XYLENES
	国連危険有害性クラス	3
	容器等級	III
国内規制	海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
	航空規制情報	航空法の規定に従う。
	陸上規制情報	道路法の規定に従う。

1 5. 適用法令

労働安全衛生法	危険物・可燃性 名称等を表示すべき有害物 名称等を通知すべき有害物 リスクアセスメントを実施すべき危険有害物
化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）	第1種指定物質
毒物及び劇物取締法	非該当
航空法	引火性液体類（危規則第2，3条危険物告示別表第1）
船舶安全法	引火性液体類（危規則第2，3条危険物告示別表第1）
消防法	第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体

1 6. その他の情報

本SDSは自社資料並びに出版されている情報、文献などに基づいて作成していますが、すべての情報を網羅しているものではなく、一般的な物性について記載しています。本情報は化学物質の安全性の参考としてご使用ください。また、本SDSの記載内容は情報提供を目的としており、製品の取り扱い上のいかなる保証をなすものではありません。